

# 夢追う少女の菓子工房

## 「場面緘黙症」13歳の杉之原さん

家族とは会話できるが、学校などでは話せなくなる「場面緘黙症」の杉之原みずきさん(13)がパティシエとして腕を振るう。「みいちゃんのお菓子工房」(近江八幡市上田町)がプレオープン1周年を迎えた。毎月2回ほどの開店日は、夢を追う少女の姿に元気づけられた子育て世代や障害者らの予約でいっぱい。グラントオープンを目指す15歳まで腕を磨き続ける。

### 近江八幡プレオープン1周年



イチゴのムースにデコレーションを施す杉之原みずきさん

(近江八幡市上田町・みいちゃんのお菓子工房)

## かわいいケーキ、評判に

みずきさんは6歳の時、場面緘黙症と分かり、一時期は不登校になった。野洲養護学校中学部に通う傍ら、日曜を中心に開店し、ショーケースにパンダ顔のケーキ、はよりのバスク風チーズケーキなどをずらりと並べる。

転機は母親の千里さん(48)がスマートフォンを買い与えたこと。自らレシピを調べ、次々とお菓子を作るようになり、写真共有アプリ「インスタグラム」で反響を呼んだ。千里さんが背中を押し、2019年4月から毎月、県立男女共同参画センター(同市鷹飼町)でカフェを開いた。

かわいくておいしいと口コミが広がり、完売する日も。自分の店を持つ夢に向けクラウドファンディング(CF)で資金を募り、全国3009人から256万円が集まった。

昨年1月、念願の菓子店をプレオープン。約2年後のグラン

みずきさんが作ったケーキやプリン。味だけでなく見た目もかわいいと評判だ



ドオープンを目標に、現在「修行中」だ。それでも来店予約は常にいっぱい、店という場を通し、みいちゃんが社会とつながる過程が素晴らしいとして20年度の「グッドデザイン賞」で金賞に選ばれた。千里さんは「元々は自分たちのためにやっていただけ、今はいろんな子どもが夢を追うという後押しのためにも、楽しく続けていきたい」と話す。

(佐藤雄)